

# 「流行おくれ」

出典：文部省「小学校 読み物資料とその利用 主として自分自身に関すること」

学年 5年 内容項目 A(3) 節度、節制

ねらい 節制して生活することの大切さを考えさせることで、節度を守り節制に心がけようとする態度を養う。

東京都新宿区立早稲田小学校  
主幹教諭  
東 幸恵



## わたしの授業、ポイントはココ

導入で、児童は友達の発表に対して「私もある」「わかる」と盛り上がっていました。展開の前半では、主人公のまゆみに自己を投影し、自分勝手さや怒りを表出していました。まゆみになりきって発表する児童もいました。このように、人間の弱い部分をクラスで共有できることはとても大切だと考えています。

また、「散らかっている部屋を見回して、まゆみは、どんなことを考えたでしょう」という発問に対して、児童から「なぜ、『私』（まゆみ）は、欲しがってばかりになってしまったのか」という発言が出ました。そのとき、私は「これ

だ!」と思い、「なぜ、まゆみはそうなってしまったと思いますか」と全体に問い返しました。すると、発表で盛り上がっていた教室に沈黙が流れました。児童は、そこからねらいとする道徳的価値について、さらに考えを深めていったようです。

教師が意図をもって、児童に自分を見つめさせたことで、「わかっているけれどできない自分」と、「よりよく生きたい自分」に気づき、「節度、節制」において、自己の生き方を見つめることができたのではないかと思います。

## 東先生授業、ココに注目!

場面に応じた発問の設定と児童の発言の適切な受け止めにより、ねらいに沿った一貫性のある授業になっています。また、主人公の変容につながる大事な場面では、多くの発言を引き出し、「何を?」「どういうこと?」などの問い返しを巧みに使って、児童が主人公の問題点に気づくよう促しています。これが次の中心的な発問につながり、A(3)「節度、節制」に関する児童の学びを深めることになりました。これらは、話し合い活動の効果を高める、教師の重要な支援です。

元東京都練馬区立光和小学校 統括校長  
朝倉諭美子

教材の内容(あらすじ) 主人公のまゆみは、母に流行りの新しい服が欲しいとうたえるが、「新しいものが出たら、それをすぐ買いたいというのはどうかしら」と取り合ってもらえず、いらいらしていた。そんなまゆみに、弟は、まゆみが持っていった本を返してほしいこと、その本は、本当は買ってもらいたかったけれど、母に「よく考えてね」と言われて図書館から借りたものであることを伝える。

### 導入

「節度、節制」について自分の生活を振り返り、問題意識をもつ

発問 「○○しすぎた」など、もう少し考えて行動すればよかったと思ったことはありますか。

- テレビを見すぎて、宿題をするのが大変になった。
- 好きなものに熱中して、周りを待たせて迷惑をかけてしまった。

めあて：自制する心をもって生活するために大切なこと

わかっている、自分の気持ちを抑えるのはなかなか難しいことを確認し、めあてにつなげた。

### 展開

「流行おくれ」を読んで、話し合う

発問 わざと大きな足音を立てて自分の部屋へ駆け上がっているとき、まゆみは、どんなことを思っていたでしょう。

- 1着くらい、いいじゃん。 ● 友達がうらやましい。
- 仲間外れにされてしまう。自分だけおいていかれる。

まゆみの怒り、自分勝手さを押さえた。さらに、児童の発言からまゆみに不安な気持ちもあったことを確認した。

発問 黙ったままうつむいている弟を見て、まゆみは、どんなことを思っていたでしょう。

- [怒り] ● 部屋に勝手に入らないで。言ってくれたら、探したのに。
- [後悔・反省] ● 昨日返さなかったのがよくなった。弟に悪いことをした。
- いらいらをぶつけてしまった。見当違いなことをした。

怒りが続いていることを押さえた。また、反省や後悔の発言から、「自分が悪いかも」と気づき始めたことを確認した。

発問 散らかっている部屋を見回して、まゆみは、どんなことを考えたでしょう。

- [自分] ● 部屋が汚くて情けない。弟に当たって情けない。
- [弟] ● 部屋を片付けて、ちゃんと本を探して弟に返そう。できるだけ早く。
- 弟は工夫して我慢したのに、自分は欲しい物を優先していた。
- [価値] ● なぜ、「私」(まゆみ)は、欲しがってばかりになってしまったのか。

節度、節制を欠くと、自分が困り、後悔するだけでなく、周りの人に嫌な思いをさせることもあることを押さえた。

▶なぜ、まゆみはそうなってしまったと思いますか。

- 我慢できなかったから。▶何を? ● 自分の気持ち。欲しい気持ち。
- 自分のことばかり考えていた。▶どういうこと?
- 周りのことを考えられなかった。
- 先のことを考えていなかった。▶先って? ● 自分の行動の結果。
- 流行はきりが無いのに……。▶それはどういうこと?
- 流行は変わるサイクルが早く、流行を気にしていたら、欲しいものは限りなく出てくる。だから、「本当に自分に必要か」考えることが大事。

児童の発言を取り上げ、道徳的価値の理解に迫った。

「流行はきりが無い」という児童のつぶやきをきっかけに、道徳的価値の理解を深めた。

母に対するの考えが出なかったため、視点を与えた。

▶母に対しては何かありますか。

- 自分(まゆみ)のことを考えてくれたから、厳しかったのだと思う。

中心的な発問 自制する心をもって生活するために大切なことは、何だと思いますか。

- 本当に必要かを考える。 ● 客観的に自分のことを見つめる。
- 時間をおき、落ち着いてから本当に欲しいかを考える。
- 今だけでなく、これから先のことを考える。
- どうなるかを想像して行動する。 ● 他の人のアドバイスも取り入れる。

教材で学んだことを基に、めあてに対して、グループで話し合わせ、自分たちの答えを見いださせた。

### 終末

話し合ったことを基に、自分の生活を再度見つめる

発問 授業の始めの自分に声をかけましょう。

- 今だけでなく、これからのことも考えて行動すれば、「○○しすぎてしまう」ことは少し減ると思う。がんばろう!
- 「本当に欲しいのか」と考えるのはできているから、続けよう。客観的に考えることを取り入れると、後悔することがなくなると思うよ。

「これからの自分の生活に取り入れたいこと」という視点を踏まえて考えさせた。2人に発表させた。

ワークシートに本時の振り返りと感想を書く

- ○○さんの「時間をおいて考える」という考えが自分にはなかったから、「なるほどな」と思った。これから取り入れたい。

友達の発言で、自分の考えが広がり深まったところを書かせた。